フライングディスク競技実施要領（身体・知的・精神）

１．競技規則

平成２９年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（(公財)日本障がい者スポーツ協会制定）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

２．競技方法

（１）競技はすべて競技役員の指示により進行する。

（２）競技は主催者が用意した公式用具により行う。

３．服装等

（１）競技を行う時は、競技に適した服装(運動しやすい服装)として、運動靴を着用すること。

（２）番号布は、競技服の上着の胸部及び背部に付けること。

４．招集

（１）選手招集所は、競技場内に設ける。

（２）招集は、その組の競技開始予定時刻の２０分前に開始し、１０分前に完了する。

（３）選手は招集完了時刻までに選手招集所に集合し、競技役員の点呼を受ける。招集時間に遅れた者は棄権とみなす。

５．表彰

表彰は、各組競技終了後に競技会場で順次行う。

６．介助者等

（１）介助者として入場を希望する者は､参加申込時申請をし、許可を得なければならない。許可を受けた者に限り競技場内に｢介助許可証｣（ビブス）を着用し、入場することができる。介助者は、競技に適した服装及び運動靴を着用すること。

（２）介助者は、競技役員の指示に従うものとし、競技場内では競技者の競技上有利になるような助言等をしてはならない。また、写真撮影も禁止する。

７．その他

（１）競技場内への入退場については、競技役員の指示により行う。

（２）競技及び表彰の終了した選手は、競技補助員等が解散所まで誘導し、各選手団に引継ぎ解散する。

【参考】

（１）競技種目

種目は、アキュラシーの「ディスリート・ファイブ（５ｍ）、ディスリート・セブン（７ｍ）」とディスタンスとする。

アキュラシーは全障害男女同一区分で実施し、ディスタンスは次の４つの区分に分けて行う。

- レディース・シティング：座位者女子
- メンズ・シティング：座位者男子
- レディース・スタンディング：立位者女子
- メンズ・スタンディング：立位者男子

（２）競技方法・得点（記録）・反則

<u>〇アキュラシー</u>

「競技方法」

① 試技は１０投連続して行う。

② 投げ方は自由とする。

③ 競技上有利となる用具の使用は認めない。（手指の傷口を守るためにテープを使用する場合、審判長の許可が必要）

④ プレーヤーが視覚障害者の場合、競技役員がアキュラシーゴール後方３ｍの距離から電子音によってアキュラシーゴール中心を知らせることができる。

⑤ 試技の時間は、プレーヤーが１投目のディスクを受け取ってから５分とする。５分をこえた試技は無効とする。

「得点」と「順位」

① 得点は、ディスクが地面に触れずに直接アキュラシーゴールを通過した回数とする。逆方向から通過した場合は得点とならない。

② 順位は、得点の多さで決定する。

③ 同得点の場合は、第１得点を先に挙げた者を上位とする。第１得点が同じであれば順次、得点を先に挙げた者を上位とする。

④ ③の方法によって１位、２位、３位が決定しない場合は、1セット（ ３投）の再投（追加試技）を行い得点の多さで順位を決定する。最大５セットまで行っても、順位が決定しない場合は、同順位とする。４位以下の者で同得点の場合は、再投は行わず、同順位とする。

「反則」

① プレーヤーが試技中に体の一部や補装具（いす等を含む）が足留材(スローイングライン)のプレーヤー側の側面以外に触れたとき。または踏みこえたとき。

② フットレストがスローイングラインの上方空間に出ることは反則としない。

③ 反則のあった試技は１回の試技とみなすが、得点は無効とする。

〇ディスタンス

「競技方法」

① プレーヤーはスローイングエリア内で試技しなければならない。

② プレーヤーは試技の前に１投の練習をしなければならない。練習用ディスクは競技用と同規格のもので、色は黄色とする。

③ 試技は３投連続して行う。

④ 投げられたディスクの有効範囲は、競技フィールド前方 180°とする。

⑤ 距離の計測は、スローイングラインの中央の計測点から、ディスクが最初に地面に触れた点までとする。

⑥ 投げ方は自由とする。

⑦ 競技上有利となる用具の使用は認めない。（手指の傷口を守るためにテープ等を使用する場合、審判長の許可が必要）

⑧ 試技の時間は、プレーヤーが１投目のディスクを受け取ってから３分とする。３分をこえた試技は無効とする。

⑨ 座位で競技する場合のシートの高さはクッションを含めて 75ｃｍ以下とする。

⑩ 車いす使用者以外のプレーヤーが座って競技する場合、プレーヤーの申し出により主催者が「パイプいす」を用意する。

「記録」「順位」

① 記録は、３投の試技で最も距離の遠い着地点を計測する。

② 計測はｃｍ単位とし１ｃｍ未満は切り捨てる。

③ 順位決定にあたっては、同順位（同記録）の場合、１位、２位、３位は１投の再投（追加試技）によって決定する。再投は、順位が決定するまで行う。
４位以下の者で同記録の場合は、再投は行わず、同順位とする。
再投の記録は公式記録としない。

「反則」

① スローイングエリア外から助走したとき。

② その他のスローイングに関する反則は、アキュラシーと同様に扱うものとする。

（３）抗議

①試合中の行為または競技の結果に関する抗議は、順位決定後３０分以内に、プレーヤー自身またはプレーヤーに代わる責任ある役員が、競技委員長、審判長、主審のいずれかに対し口頭でしなければならない。試合中は抗議できないものとする。

②裁定結果は最終のものであり再抗議は認められない。